

6 授業

① 授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目および単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

② 学 期

前 期 4月1日～9月10日まで

後 期 9月11日～翌年3月31日まで

③ 授業時間

時 限	時 間
1 時限	9 : 00 ~ 10 : 30
2 時限	10 : 40 ~ 12 : 10
3 時限	13 : 10 ~ 14 : 40
4 時限	14 : 50 ~ 16 : 20
5 時限	16 : 30 ~ 18 : 00
6 時限	18 : 10 ~ 19 : 40
7 時限	19 : 50 ~ 21 : 20

④ 休講・補講・集中講義

(1) 休講

学校行事を行う場合、科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等で知らせます。

(2) 補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等により連絡します。

(3) 集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。

なお、詳細な日程については、決まり次第、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等で連絡します。

⑤ 交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏JR各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

- ①午前6時において運休が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
- ②午前6時において運休の場合は、午前中の授業は休講となります。
- ③午前9時において運休の場合は、終日休講となります。

その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

台風等による暴風警報が発令された場合

東京23区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- ①午前6時において暴風警報が解除された場合は、平常通りの授業を行います。
- ②午前9時において暴風警報が解除された場合は、午前中の授業は休講とし、午後は平常通りの授業を行います。
- ③午前9時において暴風警報が解除されない場合は、終日休講となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及びポータルサイトで授業措置の情報を発信します。

その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。

上記の措置を行う場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自確認してください。

7 シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて閲覧できます。

8 試験及び成績評価

① 試験

試験は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって試験に代えることがあります。なお、試験は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

② 成績評価

成績はS・A・B・CおよびDの評価で表記されます。
成績評価は次の評点に対応します。

合否	評点	成績評価	GPA ポイント
合格	90～100	S	4
	80～89	A	3
	70～79	B	2
	60～69	C	1
不合格	0～59	D	0
	放棄	—	0

※ R…認定された科目。GPA計算には含まれません。

※ 成績証明書にはD・—は表記されません。

※
$$GPA = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得た GPA ポイント}) \text{の合計}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$$

※ GPAは小数点第4位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

③ 成績通知

前年度末までの成績通知は3月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前9月に行います。成績通知の方法、期間は学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて知らせます。

9 修了要件

① 修了単位

修士課程に2年以上在学し、各専攻が定める次の要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければなりません。

また、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（研究成果報告書）の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができます。

【建築学専攻】

以下のプログラムから択一必修とし、入学時に研究指導教員との相談により決める。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。

- | | |
|---|---|
| (1) 高度専門プログラム（研究コース）・職能教育プログラム（スタジオコース）共通科目
建築技術・知識演習Ⅱ（必修） | 2単位 |
| (2) 高度専門プログラム（研究コース）
上記（1）の共通科目に加えて、
建築学特別研究Ⅰ（必修）
建築学特別研究Ⅱ（必修）
その他の専門科目 | 4単位
4単位
20単位以上 |
| （※インターンシップV～X、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得
（選択必修）することを含む） | |
| (3) 職能教育プログラム（スタジオコース）
上記（1）の共通科目に加えて、
建築学特別設計Ⅰ
建築学特別設計Ⅱ
建築学実習Ⅰ
建築学実習Ⅱ
建築学実習Ⅲ
その他の専門科目 | 2単位
2単位
2単位
2単位
2単位
18単位以上 |
| （※インターンシップV～X、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得
（選択必修）することを含む） | |

【情報メディア学専攻】

- | | |
|---|--|
| (1) 高度専門プログラム・職能教育プログラム共通科目
情報メディア学特別演習ⅠA（必修）
情報メディア学特別演習ⅠB（必修）
情報メディア学特別演習ⅡA（必修）
情報メディア学特別演習ⅡB（必修）
情報メディア学特別研究ⅠA（必修）
情報メディア学特別研究ⅠB（必修） | 2単位
2単位
2単位
2単位
2単位
2単位 |
| (2) 高度専門プログラム
上記（1）の共通科目に加えて、
情報メディア学特別研究ⅡA（必修）
情報メディア学特別研究ⅡB（必修）
その他の専門科目 | 2単位
2単位
14単位以上 |
| (3) 職能教育プログラム
上記（1）の共通科目に加えて、
情報メディア学特別制作A（必修）
情報メディア学特別制作B（必修）
その他の専門科目 | 2単位
2単位
14単位以上 |

【ロボット・メカトロニクス学専攻】

(1) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ（必修）	4単位
(2) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ（必修）	4単位
(3) 特別輪講ⅠA、特別輪講ⅠB、特別輪講ⅡA、特別輪講ⅡB（必修）各1単位	
(4) 専門科目 （情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門）	8単位以上
(5) 専攻共通科目	2単位以上
(6) 「豊かな教養」科目	2単位以上

② 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されている本研究科の『人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的』に即し、当該研究領域における修士としての確かな基礎学力を有し、独創性、創造性のある研究能力、実践的問題解決能力等を中心に、次の基準に基づき審査されます。

なお、論文審査及び学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は、公聴会形式で行うとともに、最終試験として、研究指導教員を含む審査員による口答試験が行われます。

- (1) 当該研究領域において修士としての確かな基礎学力を修得しているか。
- (2) 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行および論文作成または論文に代わる作品等の制作にあたっての問題意識が明確であるか。
- (3) 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験を行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされているか。
- (4) 当該研究領域において、独自の価値、新規性、有用性、信頼性を有するものとなっているか。
- (5) 問題点的な確かな整理、把握、判断、解決までの実践的問題解決能力が身についているか。
- (6) 論文または研究成果物の報告書に関しては、記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、序文・本文・結論までが首尾一貫した論理構成となっているか。

③ 早期修了条件について

「優れた業績をあげた者」については、1年間もしくは1.5年間の在学期間での修了を認めます。全専攻において修了希望時期の半年前に手続きを行ない、以下の条件を充足した学生について早期修了を認めます。

- (1) 1年間終了時、もしくは1.5年間終了時に修了することを希望していること。
- (2) 入学後の1年間もしくは1.5年間で、各専攻が定める要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査及び最終試験に合格すること。

- (3) 修士論文またはこれに代わる研究成果物関連科目の成績評価が「A」以上であること。また、学術論文誌、学会誌等に1編以上の学術論文（査読付）の採録が確定していること。ただし、建築学専攻及び情報メディア学専攻においては、研究成果物を当該分野において公表し、権威ある賞を受けるなど高い評価を得た業績をもって学術論文（査読付）に代えることができます。この場合は、当該専攻主任により、学術論文（査読付）と同等とみなし、それに代えることができると認められる旨の文書提出が必要です。
- (4) 研究指導教員、専攻主任および研究科委員長が早期修了に相応しいと判断した者。

10 学位

未来科学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類およびそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

建築学専攻	修士（工学）
情報メディア学専攻	修士（工学）
ロボット・メカトロニクス学専攻	修士（工学）

11 修士論文等の取扱い

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出および審査手順については「**東京電機大学学位規程**」（後掲）およびそれに基づく手順内規等があるので、未来科学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従って下さい。

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出スケジュール等については、修了年次に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で確認して下さい。

① 修士論文

論文作成上の注意事項

- (1) 原稿は A 4判とし、Word 等で作成します。
- (2) 1 ページ目は、表紙とし、19 ページの表紙見本のように作成します。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。
- (5) 作成した論文を PDF ファイル化し、元のデータとともに CD-ROM 等で提出します。PDF ファイル化に関する注意事項は 12 月初旬に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で案内します。
- (6) 提出された論文の PDF ファイルはそのまま CD-ROM にまとめるので、丁寧に作成して下さい。

論文予稿の提出（参考：平成 25 年度の場合 平成 26 年 1 月 24 日（金）～ 27（月）まで）

- ① 原稿はA4判4枚とし、紙媒体で提出します。（提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入して下さい。）
- ② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照して下さい。
※予稿は、専攻毎に製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

論文の提出（審査用）（参考：平成 25 年度の場合 平成 26 年 1 月 31 日（金）まで）

- ① 研究指導教員、審査員に1部ずつ直接提出して下さい。
- ② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照して下さい。

論文の提出（大学保存用）（参考：平成 25 年度の場合 平成 26 年 2 月 28 日（金）まで）

最終版1部をPDFファイル化し、CD-ROM等で工学部・未来科学部事務部に提出して下さい。
※CD-ROM化して本学図書館で永久保存されます。

論文審査

論文（審査用）提出後、研究指導教員、審査員による論文審査（通常口頭又は文書）が行われます。試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けて下さい。

修士論文および研究成果発表会（参考：平成 25 年度の場合 平成 26 年 2 月 15 日（土）予定）

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は1月より準備を開始して下さい。

発表方法等は、1月初旬に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて発表者へ詳細を連絡します。

② 修士論文に代わる研究成果

研究成果報告書作成上の注意事項

研究成果物や研究成果報告書の提出形態は、研究テーマごとに異なりますので、研究指導教員の指示に従って下さい。

なお、研究成果報告書作成に係わる注意事項は、次のとおりとなります。

- (1) 原稿はA4判とし、Word等で作成します。
- (2) 1ページ目は、表紙とし、19ページの表紙見本のように作成します。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右2センチの余白をとります。
- (5) 作成した研究成果報告書をPDFファイル化し、元データとともにCD-ROM等で提出します。PDFファイル化に関する注意事項は12月初旬に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で案内します。
- (6) 提出された研究成果報告書のPDFファイルはそのままCD-ROMにまとめるので、丁寧に作成して下さい。

研究成果報告書予稿の提出(参考:平成 25 年度の場合 平成 26 年 1 月 24 日(金)～ 27 日(月)まで)

① 原稿はA4判4枚とし、紙媒体で提出します。(提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入して下さい。)

② レイアウトについては「研究成果報告書予稿見本」を参照して下さい。

※予稿は、専攻ごとに製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

研究成果報告書の提出(審査用)(参考:平成 25 年度の場合 平成 26 年 1 月 31 日(金)まで)

① 研究指導教員、審査員に1部ずつ直接提出して下さい。

② 表紙は「研究成果報告書表紙見本」を参照して下さい。

研究成果報告書の提出(大学保存用)(参考:平成 25 年度の場合 平成 26 年 2 月 28 日(金)まで)

最終版1部をPDFファイル化し、CD-ROM等で工学部・未来科学部事務部に提出して下さい。

※CD-ROM化して本学図書館で永久保存されます。

研究成果審査

研究成果報告書(審査用)提出後、研究指導教員、審査員による審査(通常、口頭または文書)が行われます。

試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けて下さい。

修士論文および研究成果発表会(参考:平成 25 年度の場合 平成 26 年 2 月 15 日(土)予定)

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は1月より準備を開始して下さい。

発表方法等は、学生ポータルサイトDENDAI-UNIPAにて1月初旬に発表者へ連絡します。

【修士論文予稿見本】
【研究成果報告書予稿見本】

論 文 題 目
(英 文 名)

学籍番号 氏名
研究指導教員 教授 氏名

本 文

【修士論文表紙見本】
【研究成果報告書表紙見本】

修 士 論 文 ※
論 文 題 目
(英 文 名)

東京電機大学大学院未来科学研究科
○○○専攻修士課程
学籍番号 氏名
研究指導教員 教授 ○○ ○○

※研究成果報告書の場合は、「修士論文」を「研究成果報告書」として下さい。

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職	
		H25	H26										
専門研究	ロボット・メカトロニクス学特別研究 I	随時	随時	2	4	必	1	通年	常	石川 潤		工業	
	ロボット・メカトロニクス学特別研究 II	随時	随時	2	4	必	2	通年	常	国吉 光 汐月 哲夫 畠山 省四朗		工業	
	特別輪講 I A	随時	随時	1	1	必	1	半期(前)	常	花崎 泉			
	特別輪講 I B	随時	随時	1	1	必	1	半期(後)	常	宮武 信春 松垣 博章			
	特別輪講 II A	随時	随時	1	1	必	2	半期(前)	常	横山 智紀 岩瀬 将美			
	特別輪講 II B	随時	随時	1	1	必	2	半期(後)	常	釜道 紀浩 鈴木 聡 中村 明生			
情報駆動システム	コンピュータネットワーク特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	松垣 博章			
	コンピュータシミュレーション特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	古賀 雅伸			
	最適化法特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	汐月 哲夫			
	非線形制御特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	岩瀬 将美		工業	
	システムと信号特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	畠山 省四朗		工業	
	アドバンスドコントロール特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	汐月 哲夫 石川 潤		工業	
メカトロニクス	信号処理特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	花崎 泉	情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門の科目から8単位以上必ず修得すること。 「コンピュータシミュレーション特論」は、集中講義で開講	工業	
	アドバンスドメカトロニクス特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	釜道 紀浩		工業	
	計測標準論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	大園 成夫 高増 潔 松本 弘一		工業	
	インフォメーションインターフェース特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	横山 智紀			
ロボット・デザイン	ロボットインターフェース特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	鈴木 聡			工業
	ロボットプランニング特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	山北 昌毅			工業
	アドバンスド・ロボティクス	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	石川 潤 荒井 裕彦 梶田 秀司 黒河 治久 吉見 隆		工業	
	エネルギー変換学特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	国吉 光		工業	
	知能システム特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	中村 明生		工業	
	ロボット設計特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	石川 潤		工業	
専攻 共通科目	産業別企業研究特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	小泉 寿男	平成26年度担当者は未定		
	エンジニアリング・ビジネスA	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宮武 信春		工業	
	エンジニアリング・ビジネスB	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮武 信春		工業	
	プロジェクト型ワークショップ	○	○	1	2	選	1	半期(前)	常	石川 潤 国吉 光 汐月 哲夫 畠山 省四朗 花崎 泉 松垣 博章 横山 智紀 岩瀬 将美 釜道 紀浩 鈴木 聡 中村 明生 京藤 康正 広田 和洋	専攻共通科目部門の科目から2単位以上必ず修得すること。		
	インターンシップ	○	○	随時	2	選	1・2	随時	常	石川 潤 国吉 光 汐月 哲夫 畠山 省四朗 花崎 泉 松垣 博章 宮武 信春 横山 智紀 岩瀬 将美 釜道 紀浩 鈴木 聡 中村 明生			
	ITとビジネスモデルA	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宮武 信春			
	ITとビジネスモデルB	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮武 信春			
「豊かな教養」科目	安全都市システム論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	片山 恒雄			
	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	安田 浩 工藤 浩輔	「豊かな教養」科目部門の科目から2単位以上必ず修得すること。		
	情報セキュリティ実践概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	安田 浩 河野 省二 長谷川 長一			
研究科 共通科目	科学英語 I	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	松垣 博章	コロラド大学英語短期研修 専攻主任が担当する		
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	富田 英雄	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に合わせて開講		

注1)開講区分欄「●○」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講